



第 10 号

みせん

瀬戸内海国立公園

宮島地区パーク

ボランティアの会

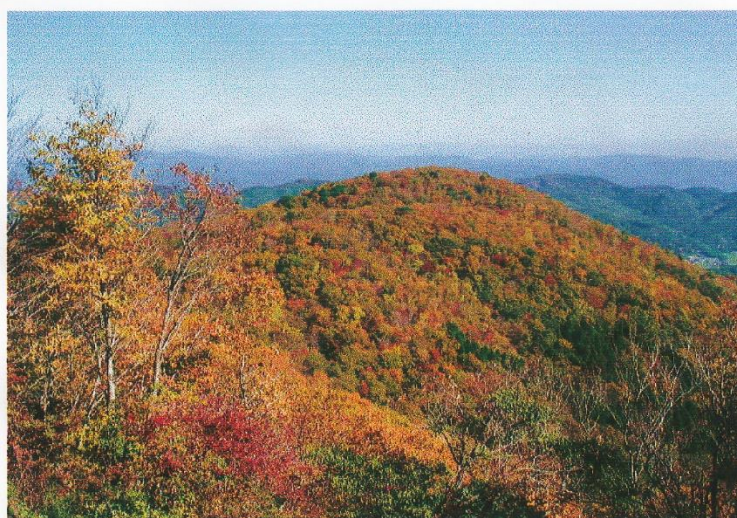
発行日

平成14年12月 1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|--------------------|-------------------|
| P2 PV 合同交流研修会 | P8 投稿 オーストリア紀行 池下 |
| P3 // (倉敷 PV 活動計画) | P9 「みせん」アンケート集計 |
| P4 子どもパークレンジャー | お知らせ 編集後記 |
| P5 // 第2回 大久野島 | P10 事務局からの連絡事項 |
| P6 子どもパークレンジャー | (PV 会員 行事参加状況) |
| P7 // 第3回 深入山 | |

☆ ☆ ☆ ☆



☆ ☆ ☆

「里山の秋」

西中国山地のランドサット画像を見たことがありますか、北東から南西に走る断層帯に沿って山並みがきれいに整列しています。そんな中に周囲とは明らかに異なる丸い高原状の地形があります、ここが龍頭山(928.4m)が座する豊平町です。標高300から400mの中国山地の中におだやかな里山の風景が広がっています。

龍頭山の紅葉の見事さは写真でご覧のとおりです。ナツハゼの赤やタカノツメの黄色など、特に秋の青空によく映えますね、山頂からは恐羅漢山、吉和冠山、阿佐山など全方位が見渡せ、天気良ければ遠く三瓶山(島根県)もみることができます。

今では頂上近くまで車で上がることができますが、比較的手軽に登れますので、さわやかな汗をかいてみるのもよいでしょう。

(写真・文 山根 浩二)

交流楽しく! 研修も楽しく?

パークボランティア合同交流研修会

於 竹原市忠海町大久野島

瀬戸内海国立公園に所属する3ヶ所のPVの交流研修会が実施されました。

主催は環境省山陽四国地区自然保護事務所で、今回は講師の先生のゼミの学生さんも参加し楽しく刺激を受けた交流研修会でした。 (松尾)

- < 目 的 > PVの交流によって、より良い活動方法を模索するとともに、瀬戸内海国立公園において活動していく上で欠かせない多島海景観について学び質の向上を図る
- < 日 時 > 平成14年9月21(土) 14:00~22(日) 12:00
- < 場 所 > 大久野島 研修、宿泊は休暇村
- < 講 師 > 西田 正憲 奈良県立大学地域創造学部教授(専門は環境論、景観論など)
- < 参加者 > 山陽四国地区事務所 市原所長以下 8名
倉敷地区PV(岡山県) 6名 五色台地区PV(香川県) 5名
宮島地区PV 8名 高光 中道 舩田 松尾 村上 山根 横山 六重部
奈良県立大学西田ゼミ(学生) 8名
- < 主な内容 > ・各地区PV・奈良県立大学活動報告 ・意見交換
・エクスカージョン ・環境行政の動向
・講演「瀬戸内海の風景の変遷」

<第1日目>

休暇村本館会議室でまずは主催者(環境省)のあいさつ、講師西田先生の紹介のあと各団体から自己紹介を兼ねた活動報告がなされた。

○環境省自然環境局

山陽四国地区自然保護事務所

「現状」瀬戸内海・足摺宇和海国立公園、野生生物などを所管する。

事務所は岡山市にあり、野生生物などが専門の高知支所、国立公園の管理を出先機関として行う高松、広島、神戸など6ヶ所の自然保護官事務所を持つ。

PVも地区事務所や保護官事務所が中心に



宮島地区から参加のPVと松垣保護官

なり設立。

「課題」人員不足と増えつつける業務量の膨大さに職員はいつも追われている。

○倉敷地区パークボランティア

(平成4年設立 会員数 25人)

瀬戸内海国立公園の鷺羽山(瀬戸大橋のたもと:岡山県倉敷市)などを中心に自然観察会や自然に関するリーフレットの作成、山林火災跡への植栽などの活動を実施。

発足時環境庁の管理官(当時)が今回の講師西田先生で非常に尽力された由。

鷺羽山は瀬戸内海の景観を楽しみ、自然に親しむ展望地だったが、瀬戸大橋完成後、その姿をみる絶好のスポットとして、バスなどで多くの観光客が訪れるようになった。

「意見」重要な展望園地からの景観が、樹木の枝が生い茂り、見通しが良くない状態となっている、何とか改善して貰えないか? またボランティアの手による伐採は可能か?

→ 目的が修景作業であれば、自然公園、文化財、国有林等の関係機関による許可が必要で、宮島地区PVも明治期構築、砲台跡の清掃で関係機関の許可を得て実施している。

○五色台地区パークボランティア

(平成 13 年設立 会員数 23 人)

瀬戸内海国立公園の五色台（瀬戸大橋や小豆島が見渡せる：香川県坂出市）など香川県内で自然観察会を実施していた“かがわ自然観察会”を中心に昨年度の研修を経て今年度正式に活動開始。

7 月に五色台にオープンしたビジターセンター（VC）をベースに自然解説活動や環境教育プログラムを実施。

「意見」現在の課題は国立公園の中だけでなく環境問題について地球規模で考えるプログラムを導入したいが、良い教材がないこと。また VC 内の展示物にプログラムに活用できるようなものがないこと。地区事務所の支援体制が不十分。

→ 各種教材については環境省の HP の中に地球環境パートナーシッププラザのページがある。配布資料などは地方対策調査官事務所が多く持っているので参考にしたい。また環境省や行政に頼るのでなく自分たちや民間同士で取り組んでいただきたい。さらに PV や VC は自然公園を中心とした活動が基本と考えて欲しい。

○宮島地区パークボランティア

(平成 10 年設立 会員数 48 人)

瀬戸内海国立公園の宮島（世界遺産、安芸の宮島：広島県宮島町）を中心に自然観察会や子どもパークレンジャー（JPR）のサポート、清掃や登山道補修などを実施。

昨年度は“弥山史跡巡り”“登山道の植物”“シカを救うのはわたしたち”の各冊子を発行、宮島桟橋などで頒布中

「意見」宮島に VC の設置を要望

→ 設置希望については理解する。場所、



宮島地区の説明をする横山さん

地元行政の協力、予算、省の計画などあり、今はなんとも言えないが希望は留意しておく。

(市原所長)

○エクスカーショ

屋外に出て休暇村のバスに乗り砲台跡や毒ガス貯蔵庫などを西田先生の解説を聞きながら見学しました。瀬戸内海の風景の見方やその背景にある思想などは、宮島地区 PV も知らないことが多く大変有益でした。

<第2日目>

1、環境行政の動向

市原所長から近年における環境行政の動向について解説がありました。

自然保護事務所の所管事項や生物多様性国家戦略等を中心に、公害防止から自然再生へと行政の目的が変わっていく流れが中心でした。

2、瀬戸内海の風景の変遷 西田先生

瀬戸内海の多島海景観は、各時代背景によりどのように評価されてきたのか、瀬戸内海を美しいと感じる感覚は江戸後期から明治にかけて欧米の影響を受け形成されたという内容が新鮮で印象的でした。



砲台跡、貯蔵庫等旧軍施設を見学

倉敷地区 PV の会 14 年度活動計画

(交流会で説明されたものから抜粋)

- ①自然解説ミニガイド (延 12 日 60 名)
一般の公園利用者を対象
- ②自然観察会 (延 5 日 40 名)
鷺羽山、久須美鼻での自然観察会
- ③清掃活動 (延 12 日 110 名)
- ④会報の発行 (年 1 回)
- ⑤役員会等 (延 6 日 40 名)
総会は 5 月に開催
- ⑥その他 リース作り (1 日 10 名)

<日時>平成14年8月31日(土) 8:30
 ~9月1日(日) 17:00

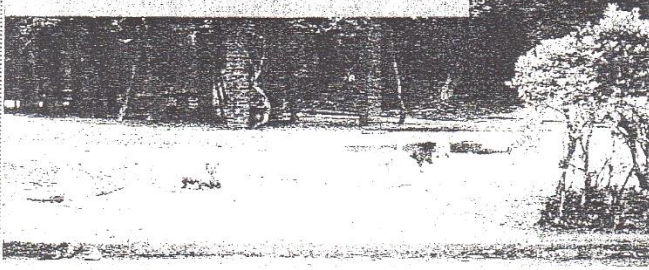
<場所>竹原市忠海町 休暇村 大久野島

<参加者>JPR 39名

<目的>

- ①海辺のキャンプ場で友だちと生活し、野生化したうさぎやウミホタルを観察するなどして動植物を慈しむ心を育む
- ②“竹の紙漉き和紙づくり”“大久野島マップづくり”の体験プログラムを通じて歴史、文化に触れる中から豊かな感性を育む。

大久野島のマスコット「うさぎ」



竹原市課長さんの歓迎あいさつ



↑ 坂元先生考案の道具を使って紙漉きや紙の乾燥、仕上げの体験をした

うさぎとウミ

第2回 竹の和紙づくり

JPR(8/31・9/1)



↑ 自作の和紙に夏の思い出などを書き込み



夕食の準備



夕食は皆でバーベキュー、一番楽しい時

ホテルの楽園

と大久野島の探検

於休暇村 大久野島

<スタッフ>

環境省 桧垣、望月、中村自然保護官

人間科学研究所 志賀所長 内平 門田 大滝

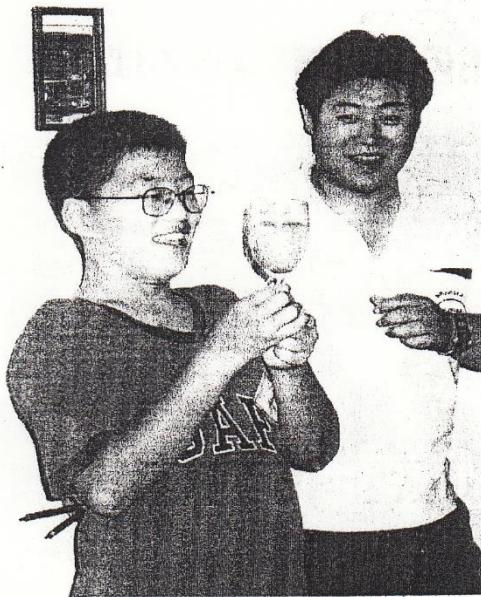
竹の和紙工房 坂元先生

休暇村（ウミホテル） 大森、植波先生

PV （本部付）横山（記録）

（各班付）小方（為）中本 丸平 森

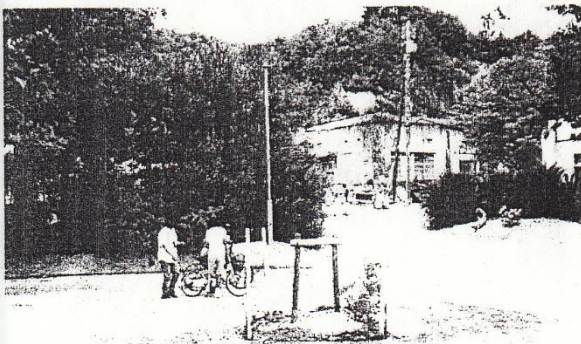
安井 吉川



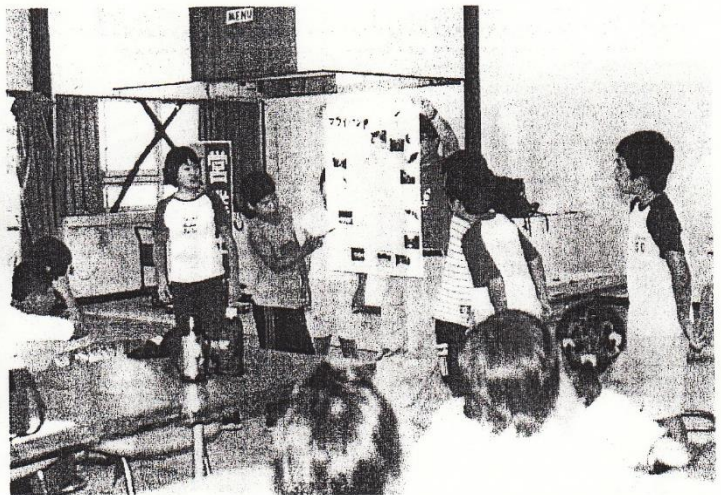
↑大森先生が仕掛けたトラップからウミホテルを取り出してコップの中に、それに弱電流を流して発光実験。感激した子どもたちから盛んにアンコール



↑ 大久野島を探検し撮ってきた歴史遺産の写真や葉っぱなどをマップに貼り付けたり書き込んだりして学習、整理



↑ 毒ガス貯蔵庫跡、北部砲台跡、旧軍発電所跡等々を班毎に自転車に乗って大久野島（一周）を探検



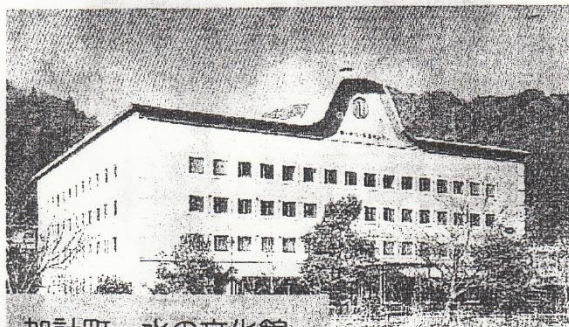
↑ 各班毎、整理したマップを発表。このマップはあとで休暇村の食堂に寄贈、展示された

JPR のメンバーには昨年参加した子どももあり、また今回は包ヶ浦自然公園に続く 2 回目なので皆がすぐに仲良くなり、終始なごやかな雰囲気でした。 (横山)

< 目的 >

西中国山地と瀬戸内海は太田川によって繋がっています。豊かな森は人の生活を支え、瀬戸内海を育んでいます。

今年度最後のJPR活動は太田川を遡り、深入山麓で合宿し「人」「生活」「水」「動物」「植物」などのかかわりについて学びました。



加計町 水の文化館

温井ダム建設のための「ワークステーション」でしたが、工事が完了し加計町が建物を譲り受け「川・森・文化・交流センター」として生まれ変わりました。1階は国土交通省の「水の文化館」として太田川に関する最新の展示がされています。



↑ 太田川沿いに走行するバスの中で広島市環境局の福田さんから総延長103km(源流から河口まで)の太田川の清流と恵みについて色々話を聞きながら最初に着いたところが加計町の「水の文化館」でした。

<日時> 平成14年10月5日(土) 9:00

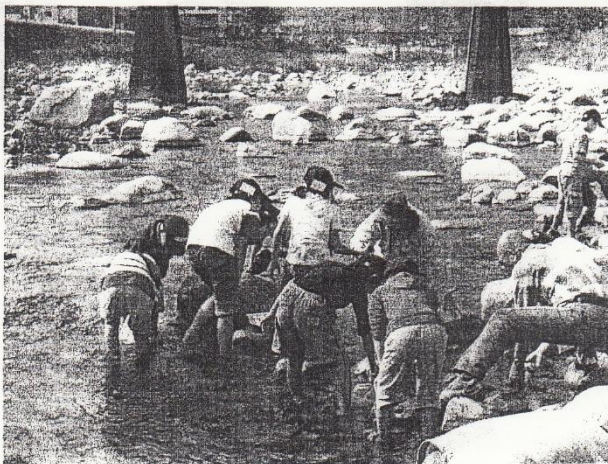
~ 10月6日(日) 17:00

<集合・解散場所> 広島駅 新幹線口

<参加者> JPR 31名

第3回 JPR 10/5・6 太田川を遡り

於 水の文化館 まほろば護岸



↑ 「まほろば護岸」の対岸で川の中に入り水生動物の観察、採集、分類を班毎に行いました。



↑ 深入山集会所に着いたあと、大丸さんの指導で裏山に入り小動物のトラップを仕掛けました。(翌朝確認に行きましたが残念ながら小動物は掛かっていませんでした)

<スタッフ>

環境省 門田利用指導官 桧垣自然保護官
 人間科学研究所 志賀所長 内平
 PV 総括 足立、新川(記録)
 各班付 近藤、高光、田村、浜本、森川、山根

「ゲスト」 福田 功 (川、水の指導者)
 大丸 秀士 (動物の指導者)
 栗栖 浩司 (森林の指導者)

森と海のかかわり を考える

於深入山麓



↑ 大丸さんの指導で紙を使った大きなツリーを作り幹や枝に思い思いの動物や葉っぱを書き込みました。子どもたちの発想の豊かさ、ユニークさに感心しました。



↑ 完成した「ツリー」を前にして記念撮影、このあと大丸さんから「森と生き物」の話を聞き、最後には生きたモグラも出現しました。



↑ 朝食後、栗栖さんの指導でナイフを使ったペンダントを作り、そのあと「モモンガ」の巣箱作りに挑戦しました。材料の寸法取り、ノコでの切断、穴あけ、釘打ち・・・がんばりました。



↑ 出来上がった巣箱を持って森に入る。
 ←コナラの幹に取り付けられた「モモンガ」の巣箱

深入山の第3回 JPR 活動に参加し、元気いっぱい子どもたちと行動を共にし、大変有意義な経験をさせていただきました。
 この経験を今後のボランティア活動に役立てたいと思っています。(新川)



オーストリア・アルプス

をハイキングして 池下 宏

6月下旬から7月上旬にかけ約2週間、オーストリアのインスブルック、リエンツ、ハルスタット、ザンクトボルフガングなどの町をベースに近辺のハイキングコースを歩いてきました。オーストリア・アルプスはスイスアルプスに比較して高度が低く傾斜が緩やかで高山植物も多く、楽しい山歩きでした。

◇アルプスの花に魅せられ

厳しい自然環境に適応して、よくも美しい花を短い夏の間に咲かせるものだと感動を新たにしました、特に岩場の小型リンドウの鮮やかな紫色、急傾斜砂礫地アルペンローズの群生、放牧地のシナノキンバイの輝く黄金色は印象的でした。また今年も新たにシクラメンの原種をアルバムに追加できたことも嬉しいことでした。



↑ ハルシュタット近郊

◇林業、牧畜、農業が共存共栄

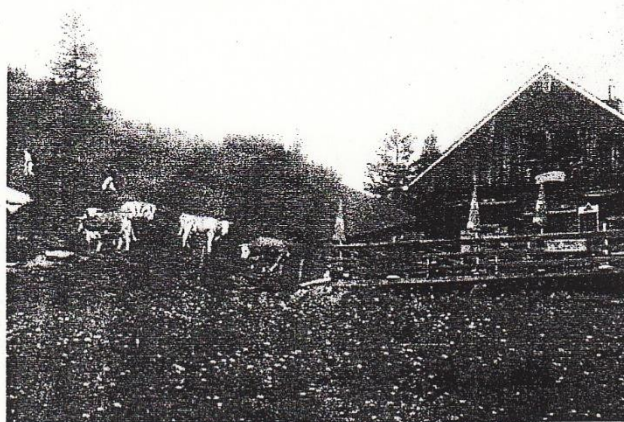
歩いた所は山間部です。日本の山間部はいずれも過疎に悩まされていますが、当地では樹林帯より高い草原で夏場には牛が放牧されています。針葉樹林帯は材木が切り出されて、なだらかな部分は牧草地です、さらに下り川幅が拡がり斜面の傾斜が緩やかな山麓部はブドウ畑でワインの産地となっています。

◇物価が安い

高速道路にはゲートがありません、無料だからです。ハイキングに必要な水、クッキー、果物などは近くのスーパーで購入しますが、日本の物価の半分で安いという印象を受けました。

◇生活を楽しんでいる

訪れた町がアルペンリゾートであるが、高速道路を走る車にキャンピングカーが多い。



↑ ザンクトボルフガング近郊

それだけキャンプ場が整備され、利用者が多いということらしい。地元のハイカーも若い人は元気一杯に、お年寄りはそれなりに自然を楽しんでいる。さらに夜になると教会主宰の音楽会、街角でのブラスバンド、チロルダンスの会とそれぞれに楽しんでいる。

◇自然が美しく保たれている

風景が素晴らしいことはいうまでもないが自然の景観を損なわないように上手に人間が利用していることに感心しました。またゴミを撒き散らすような不心得な利用者がいないことはもちろんです。

◇日本人は少ない、日本食は田舎町にも

日本からの観光客にはハイキングコースでは全く会わず、ベースタウンで時たま見かける程度でした、にもかかわらず田舎町の中華屋さんには寿司、刺身、テンプラなど日本食のメニューがあるところがあり洋食にくたびれた胃袋を休めるには困りませんでした。

宮島の切手 横山さん所蔵

「ふるさと切手」左(1995) 右(1998)



みせん アンケートの集計

広報紙「みせん」が創刊以来2周年になった機会に会員の皆様にアンケートを実施しました。アンケートの配布数 47部、回収 40部、回収率85%でした。

(1) 発行回数について

大多数が現状(年4回)で良いと回答

(2) 特に興味を持って読んだ記事

観察部会関連の活動	25
「私の趣味」等の投稿記事	24
会員の自己紹介	22
環境整備部会関連の活動	21
表紙写真とその説明	21
PVの会運営に関する記事	15
各種研修会関連の記事	13
JPRや包ヶ浦事業支援活動	13
事務局連絡事項(行事参加)	9
以下編集後記、環境省関連記事と続き 富士山あれこれ(杉本さん寄稿・第8号)	

私たちPVなかま(特集・第9号)なども興味を持って読まれたようです。

(3) 会員の投稿記事について

PVに関するものに限定する必要はないとした人が87%でした。

(4) 今後投稿しますか

いますぐにでも 5 そのうち 30
投稿するつもりはない 5

(5) 行事活動に関する記事

殆んどの人が今の程度で良いと回答

(6) 今後掲載して欲しい記事

(希望の多い順に)

- 1、国立公園他地区PVの活動状況紹介
 - 2、宮島の歴史、自然に関する解説記事
 - 3、宮島の他ボランティア団体の活動
 - 4、宮島の由緒あるポイントの紹介
 - 5、PV会員の意識調査(アンケート)
- (その他略)

(7) 広報部会への要望、注文

宮島PVのホームページを開設してはという提案が複数の会員からありました。

※色々貴重なご意見、ご提案をいただき、今後の「みせん」の編集、発行に役立てたいと思います。ご協力有難うございました。(広報部会)



「みせん」創刊号の第1面

◇ お知らせ ◇

次号発行予定 平成15年3月1日
原稿締切日 11月末日
(会員の投稿をお待ちしています)

◆◆ 編集後記 ◆◆

▼「みせん」に関するアンケートで「毎号楽しく読んでいます」や「毎号発行されるのを心待ちしています」と書いた人が多数おられましたので、嬉しくなると同時に広報部会の責任の重さを痛感しています。
▼不況で明け暮れた平成14年も残り僅かとなり、来年は21世紀3年目です。会員の皆様には、ご家族ともども健やかに、さわやかに新しい年を迎えてください。

(足立)

◆◆事務局から◆◆

PV行事参加者一覧

行事名 開催日		PV 交流会	JPR 第3回	観察会 ① ② ③	臨時 総会
番号	氏 名	*1	*2	*3	11月30日
2	足立 清		○	○	○
3	池下 宏			○ ○	○
4	池田 靖夫				○
5	稲村 正寿				
6	岩崎 義一				○
7	小方 為子			○ ○	
8	小方 嗣彬			○ ○	
9	小川 加代			○	○
10	甲斐 崇				
11	鍵本 晋一				
12	木下 三郎				
13	近藤 芳子		○		
14	島 千代喜			○	
15	新川 博		○	○ ○	
16	末原 義秋			○	
17	高光 幸三	○	○		○
18	竹内 栄太郎				○
19	谷口 和昭				
20	田村 博子		○	○	
21	中道 勉	○		○	○
22	中本 章治				○
23	名越 正子				
24	野呂田 恵子			○	
25	花見堂 英延				○
26	浜本 良子		○		○
27	東丸 久				
28	平田 広三郎				○
29	平山 美知子			○	○
30	佛崎 勝弘				○
31	古川 義文			○	○
32	本田 隆徳				
33	前田 勲			○ ○ ○	
34	前田 正人				○
35	舩田 祐子	○		○ ○	
36	松尾 健司	○		○ ○	○
37	丸平 健二			○	
38	宮崎 春雄				○
39	村上 光春	○		○ ○	○
40	森 明彦			○	○
41	森川 範吾		○	○	
42	森広 香代子			○	
43	安井 一幸			○ ○	○
44	柳瀬 佳史			○	○
45	矢吹 俊一			○	
46	山根 浩二	○	○		○
47	横山 忠司	○			○
48	吉川 直樹				
49	六重部 篤志	○		○ ○ ○	
	桧垣自然保護官	○	○	○	○

*1 9/21,22 *2 10/5,6

*3 ①11/16 植物(下見)

②11/20 自主研修

③11/24 植物(公募)

◇ 行 事 予 定 ◇

○一般公募観察会

(史跡、歴史遺産観察)

12月8日 8:40

宮島栈橋前広場集合

○自然解説指導者研修会

12月3～6日 古川会員参加

12月17～20日 池田会員参加

○石造物調査の下見

1月13日(祭) 9:30

大聖院山門前集合

○樹木の保護網取り付け作業

(コバンモチの幹下部を網で被覆)

1月25日(土) 9:00～15:00

○会員自主観察会(植物)

2月 9日(日) 詳細未定

◇ 幹事会の開催予定 ◇

平成 15 年

1月18日(土) 13:00～

3月 8日(土) 10:00～

場所 宮島町観光課会議室

瀬戸内海国立公園

宮島地区 パークボランティアの会

事務局 環境省自然環境局

広島自然保護官事務所

〒730-0012 広島市中区上八丁堀 6 番 30 号

広島合同庁舎 2 号館6階

TEL(082)223-7450/FAX(082)223-7451